

令和元年度 宇都宮市立瑞穂野中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

(1) 基本目標

人間尊重の精神を基盤に、豊かな心と個性をもち、自主性・創造性を発揮して、たくましく生きる人間を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

- 心身ともに健康で、気力あふれる生徒（強く） ○ 自ら学び、創造性に富む生徒（賢く）
○ 勤労を尊び、責任感のある生徒（明るく） ○ 思いやりがあり、心豊かな生徒（親切に）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

生徒が互いの個性を認めつつ、学習や行事、部活動などに目的をもって取り組む中で、自分のもつ良さに気づき、将来にわたって自分を高めようとする生徒を育成する。

そのために、教職員は自己に与えられた使命を自覚し、自己研鑽に励み、ひいては保護者や地域から信頼される学校を目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 生徒が安心して自分の成長と向き合うことができる公正で温かな学校づくりに努める。
(2) 教職員は自己の使命と責任を自覚するとともに、常に自己研鑽に励み、専門職としての力量を高める。
(3) 多様な生徒の存在を認識しつつ、生徒との人間的な触れ合いを深め、人権感覚を磨きながら生徒理解や指導方針に基づく指導を推進する。
(4) 学校の課題を明確化し、課題解決に向けて組織的に取り組む。
(5) 生徒の社会的自立を促すために、創意ある教育課程の編成に努める。（キャリア教育の視点）
○(6) 9年間を通して、生きる力をはぐくむ小中一貫教育の最終段階として、学びを広げ深められる環境を整える。
(7) 質の高い教育を目指して、学校業務の明確化、効率化や勤務時間を意識した働き方を推進する。
（教職員の働き方に関する視点）

【瑞穂野地域学校園教育ビジョン】

9年間の連続した学びの中で、生きる力（確かな学力、健やかな体、豊かな人間性・社会性）を育てる小中一貫教育

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

教育基本法及び学校教育法その他の法令並びに学習指導要領の示すところに従い、本校教育目標の達成を目指し、生徒の心身の発達の段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成する。

(2) 留意点

- ・ 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で再構築する。
- ・ 小学校及び中学校が一貫した教育課程の下で、地域住民等と連携及び協力をしながら教育活動を行えるように努める。
- ・ 保護者や地域の声を学校評価等を通して把握し、教育課程の改善に生かす。
- ・ 地域の教育力を活用するなど、必要な人的又は物的な体制を確保する。
- ・ 教育課程に基づき組織的かつ計画的に教育活動の質の向上を図ることに努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

項目	【 学 校 運 営 】
	・全職員が取り組むべき学校の課題を共通認識し、課題解決のために組織的に対処する。 ・業務改善を進め、生徒と向き合う時間の確保を目指す。 ・多様な専門スタッフと連携し、チームとして協力し合いながら指導にあたる。
	【 学 習 指 導 】
	○ 論理的に考え、思考を深めあう学習活動の推進 ○ 自主学習（家庭学習）習慣の定着を目指した指導の実践 ○ 目標の明確化と、つまづきを克服させる振り返り活動を取り入れた学習指導の実践 ・ 学校課題に即した研究授業を通しての授業改善（含 ミニ研究授業） ・ 学力調査結果の分析に基づいた課題を組織的に解決するPDCAサイクルの確立
目	【 児 童 生 徒 指 導 】
	○ いじめがおきない、不登校を出さない指導の展開、保護者への学校の取組の周知 ・ 校内対策会議等を活かした、組織的で迅速かつ継続的な対応 ・ SC、MS、関係諸機関との連携 ○ 規範意識の育成と基本的な生活習慣の確立 ・ 全ての生徒が自己肯定感の持てる学校づくりの推進
	【健康（体力・保健・食・安全）】
	○ 定期健康診断・元気っ子健康体力チェック等の結果の有効活用 ○ 健康教育・食育を通した望ましい生活習慣の確立 ・ 体力向上を目指した体育的活動の推進 ・ 交通安全指導の徹底

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目 指 す	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員・生徒の肯定的回答 85%以上	・生徒が意欲的に授業に取り組めるよう、授業のねらいを明確にすると共に、積極的にグループ学習を取り入れ、学ぶ合う態度を育成する。 ・個に応じた指導を充実させることで、進んで学習する態度を育成する。	A	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 100%、生徒が 89.3%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・校内の授業研究を通して、引き続き授業改善への取組をすすめる
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・通常の学校生活や主体的・対話的で深い学びにつながる道徳の授業の実践を通して、思いやりの心を育てる。 ・行事での振り返りや帰りの会等で思いやりのある行動をとった生徒等の事例を紹介、称賛することで啓発していく。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 93.8%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・道徳の授業や行事の振り返りの活動を通して、お互いを認め合える雰囲気醸成する。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 教職員・生徒の肯定的回答 85%以上	・生徒会を中心とした取組により、意識の向上を図るとともに生徒の主体的な活動を促していく。 ・毎週行われる生徒指導部会において共通理解を図り、教職員が同歩調で指導にあたれるよう努める。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 100%、生徒が 89.9%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒会を中心とした取組を推進し、生徒自ら問題点や課題を見出し、改善して行ける主体的な活動を支援する。

生徒の姿	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒・保護者の肯定的回答 85%以上	○生徒会あいさつ運動をさらに発展させ、部活単位のあいさつ運動を推進する。 ○校内や地域学校園のあいさつ運動を充実させるため、地域協議会や PTA との連携をより進めたあいさつ運動の推進し、生徒があいさつしやすい環境をつくるとともにあいさつの習慣化を図る。	A	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒が 95.2%、保護者が 87.9%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒主体のあいさつ運動や地域学校園及びふくまち委員会との共催によるあいさつ運動を充実させ、地域や保護者の方へのあいさつの習慣化を図る。
	A 5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・自己肯定感を高める活動や達成感を味わわせる活動を通し、目標に向かって粘り強く取り組む力を高める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 83.6%であり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・学習面・生活面で生徒一人ひとりの目標を明確にし、認め、励ます活動を基本として粘り強く取り組めるよう支援する。
	A 6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・生活安全委員会・保健委員会の活動や保健体育の授業を通して、健康や安全についての意識を高める。 ・定期的な登下校指導、安全点検等を通して安全に生活できる環境作りに努める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 91.7%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒会活動を充実させることで、健康や安全についての意識を高める。
	A 7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・お互いを認め合う活動を通して、協力し合う大切さを学ばせるとともに、キャリア教育を通して、自分の夢や目標が明確になるよう指導していく。 ・地域の行事に積極的に参加を促し、人の役に立つ喜びを味わわせる。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 84.4%であり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・キャリア教育を充実させ、生徒一人ひとりの夢や目標が明確になるよう支援する。 ・生徒会活動やボランティア活動を通して社会貢献に対する意識を高める。
	A 8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・英語の授業などで積極的に ALT を活用し、言語活動の充実を図る。 ・ALT には授業中はもとより休み時間、給食、清掃においても英語でコミュニケーションをとるよう促していく。また、インタビューテストなどで生徒が積極的に英語を用いて活動できる時間を増やしていく。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 89.6%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・英語で授業を行うことを基本とし、生徒が積極的に英語を用いてコミュニケーションを図れるよう工夫する。
	A 9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒・保護者の肯定的回答 85%以上	○1 年の総合的な学習の時間の「郷土」において、宇都宮の学習を行う。 ○地域の行事に参加を促し、宇都宮の良さを知る機会を増やす。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、生徒が 78.3%、保護者が 65.4%であり、共に数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間や地域行事に参加することで、宇都宮の良さを知る機会を増やすよう工夫する。

	A10 生徒は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・情報教育や総合的な学習の時間における調べ学習等で、ICT 機器や図書等を活用する力を育てる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 67.9%であり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・授業の中で、タブレットや学校図書館を積極的に活用し、生徒が ICT 機器や図書に触れる機会を増やしていく。
	A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 80%以上	○体育祭における高齢者招待等の機会をもち高齢者に対する感謝やいたわりの心を持てるよう指導する。 ・地域の福祉のまちづくりに協力し、地域の行事等で高齢者との交流の場を持つことで、高齢者の理解といたわる心を育てる。	B 【達成状況】 ・保護者の肯定的回答は 85.7%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・道徳の授業や高齢者と触れ合う活動を充実させることで、高齢者をいたわる心を育てる。
	A12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・社会科、技術家庭科、理科の授業の中で、「持続可能な社会」などについて、話し合い活動を取り入れることで関心を持たせる。 ・生徒会のリサイクル活動や総合的な学習の時間を利用し環境問題について考える機会をつくる。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 65.5%であり、数値目標を大きく下回った。 【次年度の方針】 ・各教科及び生徒会のリサイクル活動を通して環境問題について関心を持たせる。
	B1 生徒は朝の読書にまじめに取り組んでいる。 【数値指標】 教職員・生徒の肯定的回答 95%以上	・生徒が主体的に読書に取り組める環境整備に努めるとともに、読書活動の支援のあり方を検討する。 ・図書委員会による本の紹介を活発に行い、読書への興味関心を高める。	B 【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 100%、生徒が 94.6%であり、教職員は数値目標に達したが、生徒は数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・朝の読書や図書委員会活動を通して、継続的な取組を行い、望ましい読書習慣の形成を推進する。
	B2 生徒は自主学習ノートに前向きに取り組んでいる。 【数値指標】 教職員・生徒の肯定的回答 90%以上	○素晴らしい取組をしている自主学習ノートを積極的に紹介し、よりよい家庭学習の進め方や方法を広く周知する。 ○生徒会の学芸委員会を通して、優秀な取組を紹介・表彰することで生徒の意欲を高める。	A 【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 100%、生徒が 86.6%であり、教職員は数値目標に達したが、生徒は数値目標に達しなかった。 【次年度の方針】 ・家庭学習の習慣化と質の向上を図っていく。
目指す学	A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・特別支援コーディネーターを中心に個別の教育支援計画を作成する。 ・校内支援委員会を定期的に開催し、共通理解を図る。 ・教育相談部会において、情報交換を行うとともに、SCの支援を積極的に取り入れる。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・引き続き校内支援委員会や教育相談部会において、特別な支援を必要とする生徒の情報交換を行い、適切な支援が円滑に行えるよう共通理解を図る。

校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	・生徒会が中心となって「いじめ撲滅キャンペーン」を展開しいじめの未然防止に努める。 ・「いじめアンケート」を定期的 to 実施し、いやな思いをしている生徒については迅速に対応する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 98.8%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 生徒主体で、いじめをなくすための具体的な取り組みを行う機会を設定し、適切に支援していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・小中で連携して不登校児童・生徒の情報を共有し連携して検討し、支援を行う。 ・教育相談部会を毎週開催し、情報交換及び支援策の検討を行い、共通理解のもと家庭と連携を図りながら支援していく。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 96.7%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・引き続き、SC や MS、養護教諭との連携を図り、必要に応じては、SSW を交えたケース会議を設け、組織的で迅速かつ継続的な対応を行う。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・校内支援委員会等で、外国人生徒の実態を把握し、全教職員の共通理解のもと適切な支援を行っていく。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・引き続き、外国人生徒の実態に応じた適切な支援を行い、情報交換をしながら円滑に行えるよう努める。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・生徒にとって居がいのある学校づくりを目指し、より魅力的な教育活動の推進に努める。 ・生徒会活動を充実させ、自治的・自立的な雰囲気を醸成する。 ・学級経営や教育相談を充実させ、心の通じ合う「居がい」のある活気に満ちた学校づくりを推進する。	B 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 90.8%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒の主体性を大切にした生徒会の運営を継続して進める。 ・一人ひとりの生徒の心に寄り添うことを意識して、学級経営や教育相談にあたる。
	A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・生徒にとってより分かる授業を目指し、教員の授業力向上の取組を充実させる。教員相互が授業を見合う取組を一層充実させる。 ・いつでも質問できる雰囲気づくりに努め、個に応じた学習指導を行う。 ・家庭学習やドリル学習などの指導を通じて、基礎学力を定着させる。	A 【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 94.9%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・職員研修やミニ研究授業の実施を通して職員の授業力向上に努める。
	A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	・校長を中心とした「チーム学校」の考えのもと、ミドルリーダーを中心に、お互い協力し合いながら業務に取り組む職場環境を構築していく。 ・一人一人が「風通しの良い職場」を意識することで、情報の共有化を図るとともに協力しやすい雰囲気を作る。 ・SC、SSW、MS 等と連携して課題の解決に取り組む。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 100%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・校長を中心とした「チーム学校」の考えのもと、情報の共有化を図り、協力し合いながら業務に取り組む。

A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	・時間外勤務の多い教職員に対しては、管理職が個別に面談し、業務の効率化を指導、助言していく。 ・みずほネットによる業務の効率化、部活動方針に基づいての教員の勤務時間の縮小などに取り組む。 ・行事ごとにアンケートを行い、業務のスリム化を図る。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答は 75.0%であり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・みずほネットによる業務の効率化を推進するとともに、学校行事を含め、業務の見直し、改善を図る。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 保護者・地域の肯定的回答 85%以上	○小中一貫教育推進主任を中心に各部会及び分科会の活動を充実させる。また、学校園の各小学校との情報交換及び、乗り入れ授業をはじめとする連携の推進に努める。	A	【達成状況】 ・肯定的回答は、保護者が 88.0%、地域が 94.7%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・小中一貫教育推進主任を中心に各部会及び分科会の活動を充実させる。 ・「地域学校園便り」の発行により、保護者への啓発を行い、小中一貫教育への周知に努める。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 保護者・地域の肯定的回答 80%以上	○食農体験学習では、地域の農家の協力を得ながら、田植えからお米の収穫までの活動を行っていく。 ○地域の蛸水会の協力を得ながら、ホタルの飼育を行っていく。 ○宮っ子チャレンジを通して、地域の企業等と連携しながら、キャリア教育をすすめる。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、保護者が 89.2%、地域が 89.5%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・食農体験学習やホタルの飼育、宮っ子チャレンジ等で、地域の協力を得ながら、特色ある教育活動を展開する。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 保護者・地域の肯定的回答 80%以上	○魅力ある学校づくり協議会を活性化させ、学校をより開かれた場所にするるとともに、地域の教育力を取り込んでいく。 ○地域協議会での取組を一層充実させていくとともに、魅力ある学校づくり協議会との連携・協力のもと学校支援ボランティアの充実を図る。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、保護者が 89.2%、地域が 89.5%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・地域行事にボランティアとして生徒を参加させることで、地域の役に立つ経験を積ませる。 ・魅力ある学校づくり協議会を活性化させ、学校支援ボランティアの充実を図る。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 教職員・地域の肯定的回答 80%以上	・安全点検を毎月確実に行い、修繕箇所を早めに修繕する。 ・教職員の危機管理意識を高めることで、危険な場所の早期発見と迅速な改善に努める。 ・整理整頓に努め清掃が行き届いた校舎や体育館の維持、管理に努める。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、教職員が 96.9%、地域が 91.6%であり、共に数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・教職員全員で、修繕箇所や危険な場所の早期発見を行い、迅速な改善に努める。

本校の特色・課題等	A25 学校は、学習に必要な ICT 機器や図書等を整えている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上	・授業の中で、デジタル教科書を利用したり、積極的にパソコン室を活用したり、パワーポイント等の機器や発表を行ったりしながら、ICT 機器を活用する機会を増やす。 ○地域協議会を中心とした図書ボランティアの協力を得ながら、図書室の環境を整えていく。 ・希望図書のアンケートを活用し、必要な本を取り揃えていく。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答は 67.9%であり、数値目標には達しなかった。 【次年度の方針】 ・今年度、タブレット型ノートパソコンが導入されたので、積極的に活用することで、生徒に周知していく。 ・年 2 回の定期的な図書選定会議を実施し、適切な図書の選定を継続していく。
	B3 学校はいじめのない明るく楽しい雰囲気づくり、人間関係づくりに努めている。 【数値指標】 ◎保護者・生徒の肯定的回答 85%以上	・「学校いじめ防止基本方針」の改定を受け、いじめ対策を更に強化し、学校のホームページ、学校だより、保護者会等で積極的に周知・説明していく。 ・生徒会が中心となって「いじめ撲滅キャンペーン」を展開する。	A	【達成状況】 ・肯定的回答は、保護者が 80.2%、生徒が 91.0%であり、保護者は数値目標に達しなかったが、生徒は数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・生徒主体で、いじめをなくすための具体的な取り組みを行う機会を設定し、適切に支援していく。 ・いじめ撲滅に対する学校主体の取組と、生徒主体の取り組みを、併せて周知していく。
	B4 教職員は、地域のよさを自覚し、郷土への親近感がもてる生徒を育成している。 →地域の行事への生徒の参加等を支援し、地域の方々とのふれあいを通して、そのよさを自覚し、郷土を愛する心情を育てている。 【数値指標】 ◎保護者・生徒・地域住民の肯定的評価 85%以上	○地域との関わりの中で、地域行事への積極的な参加を促し、地域貢献できる生徒の育成に努める。年間を通したボランティア募集の予定の提示をもとに、計画的に参加できるようにする。 ○PTA や地域行事への生徒の積極的な参加を促し、瑞穂野のよさを再認識させる。	B	【達成状況】 ・肯定的回答は、保護者が 88.9%、生徒が 94.0%、地域が 94.7%であり、数値目標に達した。 【次年度の方針】 ・地域行事の積極的な参加を促し、地域に貢献できる生徒の育成に努める。 ・地域の一員として育まれていることを実感できるような体験を積ませる。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・宇都宮市の共通項目となる 25 項目（A1～A25）において、調査した全対象者（教職員・保護者・地域住民・生徒）から回答を得た全 75 項目のうち、肯定的回答の割合が 80%を上回った項目は 60 項目（全体の 80%）であり、市の平均を上回っている項目が 57 項目（全体の 76%）であることから、本校の教育活動が全体的に肯定的に受け止められていると捉えられる。

・教職員評価、保護者評価、地域評価（質問項目にないものは除く）、生徒評価のすべてで市の平均を上回る（同率を含む）ことができた項目は、「A2-生徒は思いやりの心を持っている」「A3-生徒はきまりやマナーを守って生活している」「A10-生徒は ICT 機器や図書等を学習に活用している」「A11 生徒は高齢者に対する感謝やいたわりの心を持っている」「A14-教職員はいじめが許されない行為であることを指導している」「A15-教職員は不登校を生まない学級経営を行っている」「A18-教職員は分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」の 7 項目。このことから考察すると、課題はあるものの「本校が、学習指導と生徒指導がしっかりと行われ、思いやりのある優しい生徒が育成されている」と捉えることができる。

・教職員評価（市内共通 25 項目）のうち、「A21-小中一貫教育」を除く 24 項目で市の平均を上回ることができた。このことから、教職員にとって、居がいのある職場であり、仕事にやりがいを感じながら、教育が行われているといえる。

・保護者評価は、市内共通 19 項目のうち 18 項目が、市の平均と同等か上回る結果となった。このことから、保護者は学校の教育活動に理解を示しながら、学校と協力して生徒の教育にあたっていることがうかがえる。一方、市の平均を下回った項目は「A1-生徒は進んで学習に取り組んでいる」（-2.8 ポイント）で、自主学習の取り組みを含めた家庭学習のあり方に課題が残った。

・地域住民の評価では市内共通 11 項目中、市の平均を上回った項目は 5 項目に対して、下回った項目が 6 項目あり、教職員

及び保護者の評価に比べ、下回る項目が多い結果となった。昨年度から評価対象者の範囲を変え人数が多くなったことが大きな要因と考えられるが、広範囲への周知徹底が必要だと思われる。

・児童生徒の評価では、市内共通 20 項目中 14 項目で市の平均と同等か上回る結果となった。特に高かった項目は「A18-教職員は分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」(生徒評価 94.9%、市平均より+5.0 ポイント)、「A14-教職員はいじめが許されない行為であることを指導している」(98.8%で市平均より+4.1 ポイント)、「A15-教職員は不登校を生まない学級経営を行っている」(96.7%で市平均より+3.6 ポイント)、「A17-学校は活気があり明るくいきいきとした雰囲気である」(90.8%で市平均より+4.1 ポイント)。このことから、教育活動が成立する上で最も大切な教師と生徒の信頼関係がしっかりと築かれ、生徒にとって明るく楽しい場所になっていることがうかがえる。一方、市の平均を大きく下回った項目は「A21-小中一貫教育」(60.6%で市平均より-17.4 ポイント)で今後の対策に検討を要する結果となった。

○「A21-小中一貫教育」については、教職員評価が 90.6%、保護者評価が 88.0%、地域住民評価が 94.7%に対して生徒評価が 60.6%と低く、小中生との交流の機会を増やすと共に、小中一貫だより等で周知徹底を図るなど対策を講じる必要がある。

7 学校関係者評価

- ・れんげ祭り、地区体育祭など中学生が地域行事に参加してくれていて、とても助かっている。
- ・学校に来ると、元氣よく挨拶してくれる生徒が多い。地域の評価が思ったより低いのは、顔が知られていないのものもあるかもしれない。
- ・小中一貫教育については、何を行っているのかが、伝わりにくいので、小中一貫だよりを発行する事には賛成。楽しみにしたい。
- ・地域住民評価については、昨年度から民生委員が加わったので、実際に民生委員の方に、体育祭や文化祭などに来てもらうなど、学校に足を運んでもらう機会を増やしてはどうか。
- ・いじめや不登校は、今後もゼロを目指して取り組んでほしい。
- ・アンケートの数値については、生徒と教職員の数値が一番信頼できると思う。その視点から見ても、明るく元氣で素直な生徒が育っているといえる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・昨年度以上に全体として肯定的に評価されている。
 - ・いじめ対策については、生徒の質問項目の中で、最も高い評価（98.8%）となった。生徒会を中心とした「いじめ撲滅キャンペーン」や嫌な思いをしている生徒に対して、教職員が組織的かつ迅速に対応してきた結果と思われる。今後も継続して、いじめ対策に取り組み、いじめゼロを目指していきたい。
 - ・学力向上については、「A18-教職員は分かる授業や児童生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」において、教職員、生徒ともに高く、各種学力調査の結果を見ても学力の向上が表れてきている。今後も教職員が授業力の向上に努め、きめ細かな指導を心がけていきたい。
 - ・地域住民の評価が市の平均よりやや低い結果になったことをうけて、今後は地域の方に学校へ足を運んでもらう機会を増やすことや、学校の広報活動を充実させることで改善を図っていきたい。
- 小中一貫教育については、「小中一貫だより」を発行することで、生徒、保護者、地域住民に、活動内容を理解してもらうように努めていきたい。